



2



3



4



5

1 正面入口(大町広場側)、手前の空地には12月ごろ共同店舗などがオープン予定。2 核店舗のイオンスーパーセンター。売場の一角に産直コーナーの「結いのはま」が設けられている。3 「BITTOK(ビットコ)」は、宮城県塩釜市が本社の(株)ビズ・カンパニーが展開(3階)。4 フードコート(2階)に出店している飲食店のほとんどが釜石市初出店。5 エコだけでなく防災インフォメーションコーナーも設置(2階)。6 広いモールには、ゆったりとした休憩スペースが随所に設けられている。7 「スタジオアリス」(3階)など、サービステナントも充実。8 避難誘導案内が館内各所に掲示されている。9 ワールドが展開する「SHOO-LA-RUE(シューラルー)」(2階)。

概要

所在地 岩手県釜石市港町2-1-1
敷地面積 約29,000㎡
建物延床面積 約46,100㎡
総賃貸面積 約27,545㎡
(うち、核店舗売場面積7,636㎡)
テナント数 55店舗(核店舗除く、ATM含む)
建物構造 鉄骨造地上3階建
(店舗は2、3階(一部1階))
ディベロッパー イオンタウン(株)
HPアドレス <https://sc.aeon town.co.jp/kamaishi/>



1

東日本大震災で大きな津波被害を被り、中心地が壊滅的な打撃を受けた岩手県釜石市に、震災から3年目を迎えた3月14日「イオンタウン釜石」がオープンした。2011年10月に釜石市からイオンに出店の打診があり、11月には新日鐵住金(株)釜石製鐵所構内に出店地が内定、今回のオープンに至った。2013年3月には、釜石市とイオンタウン(株)、キーテナントのイオンスーパーセンター(株)の3者で「大規模商業施設の立地及び地域貢献に関する協定」、2014年2月には「大規模災害時における支援協力に関する協定」を締結するなど、地域との共生、災害対策などに徹底的にこだわったSCである。イオンタウン(株)は、これまで小商圏の顧客をターゲットに生活必需品を中心としたネイバーフッドタイプのSCを開発してきたが、同SCでは想定商圏を車で40分程度としたコミュニティタイプのSCづくりを目指した。テナント55店舗(ATM含む)のうち、物販は27店舗。飲食とサービスはそれぞれ14店で、飲食・サービスの比率が高い構成になっている。同市ではこれまで、市内の衣料品店や飲食店などは一部営業を再開したものの絶対数が不足しており、買回り品なども含めて盛岡や仙台まで出かけていた。こうした需要に対応し、今回のテナントミックスとなっている。

日本のSC Shopping Center

「イオンタウン釜石」

東日本大震災被災地の復旧、復興を後押しする



8



6



9



7